

●一般演題Ⅰ 「排尿障害」

座長：石塚 修（信州大学）

5. 膀胱痛症候群に対する竜胆瀉肝湯の効果

横浜市立大学医学部付属病院 泌尿器科女性外来¹⁾

横浜元町女性医療クリニック・LUNA²⁾

○関口 由紀¹⁾、窪田 吉信¹⁾、関口 麻紀²⁾
長崎 直美²⁾、槍沢 ゆかり²⁾

【はじめに】竜胆瀉肝湯は、薛氏十六種を出展とする漢方方剤で、寺澤によれば、尿路と下部消化管に裏熱をおびた水滞があるため排尿痛、排尿障害などの症状を呈し、あわせて心と肝の陽気の病的過剰状態があり、イライラ感や、のぼせ感などの精神症状を呈するものに用いるとしている。膀胱痛症候群とは、国際尿禁制学会の定義によれば、膀胱充満に関連する恥骨上部の疼痛があり、昼間頻尿・夜間頻尿などの他の症状を伴い、尿路感染症や他の明らかな病的状態が認められないものをいい、臨床的には間質性膀胱炎を含む概念である。今回膀胱痛症候群の患者に対し竜胆瀉肝湯を投与しその効果を評価した。

【方法】膀胱痛症候群の女性患者10名に、ツムラ竜胆瀉肝湯7.5g 各食前3×を4週間与し、投与前後に、ICIQ-SF（国際尿失禁会議尿失禁症状・QOL質問票）、OABSS（過活動症状質問票）、O'Leary and Sant 間質性膀胱炎質問票、排尿記録を記入してもらい、竜胆瀉肝湯の効果を評価した。

【対象】膀胱痛症候群の女性患者10例（平均44.8歳）とした。

【結果】ICIQ-SFでは、投与前の尿失禁のなかった8例に症状は不変であったが、投与前に尿失禁があった2例の尿失禁症状の悪化が認められた。OABSSは、6例は改善、4例は不変であった。O'Leary and Sant 間質性膀胱炎質問票のうち症状スコアに関しては、改善が6例、不変2例、悪化2例であった。痛みスケールでは、改善5例、改善なし4例、悪化1例であった。排尿回数は、減少8例、変化なし1例、悪化1例であった。

【考察】竜胆瀉肝湯は、膀胱痛症候群患者の膀胱痛と排尿回数を改善する可能性が示唆された。